



上演の様子

だと思って取り組んでいます。しかし、そのまま引き継ぐのではあまり意味がありませんので、自分達の時代のものを加え、さらに立派なものにして後世に伝えていくことが大切だと考えています。そのためには、想いを同じくした者が一緒に力を合わせて取り組むことが必要だと思っています。

活動をしていると色々な方々に出会えますし、遠くから来た人も気軽に話ができます。歓声が上がった拍手が出たり、それが喜びであり生きる糧となっています。

苦勞したこと

活動している中では自分の想いが通らないこともあり、考え方が違う方もいることを痛感することもあります。議論して物事に取り組み大きな力が出てくると思いますが、その逆もあるということです。

我々のような団体は、会社組織ではありませんので、上下関係がなく、全く公平・平等です。その中で人を動かすということは非常に大変なことだと感じています。会社であれば賃金という形で生活に繋がっていますが、このような活動は生活と繋がっていませんので、何か魅力がなければ会の皆さんも動いてくれません。ですから、楽しむことが根底にないと活動は続けられません。楽しむ中で桐生市の観光の目玉にするという共通の目標を持って、これからも話し



桐生からくり人形芝居保存会 石関 博さん

活動を始めたきっかけ

隣近所との繋がりが薄れつつある中で、地域のために何かお手伝いできることはないかと考えていました。勤めていた際に、会の活動拠点である有隣館に関わる仕事をしていましたので、この施設に非常に思い入れがあり、施設の保存・活用にも貢献したいという考えから、仲間に入れていただきました。

活動内容

活動内容はからくり人形芝居を上演することですが、芝居は全て手作り、舞台の製作からナレーション、人形の操作まで全て私達が自ら行っています。演目の多くは歌舞伎を元にした内容ですが、小学生向けに現代版の演目も用意しています。

これまでは毎月第一土曜日に1日5回の定期上演をしていましたが、昨年から桐生市に委託され



からくり人形

第三土曜日にも上演しています。基本的には有隣館内の桐生からくり人形芝居館で上演していますが、移動舞台を使って各地で上演することもあり、遠くは四国や兵庫、浅草などでも上演したことがあります。定期上演は県外から見に来ていただくこともあり、かなり知れ渡ってきたと感じています。

地域づくりへの思い

先人が築いてきた貴重な文化財・文化を後世に伝えていくことが、この時代に生きる我々の役目

「先人の築いた文化を 更に高めて後世に」

桐生からくり人形芝居保存会 石関 博さん(桐生市)

地域づくり人物リレーは、県内で地域づくり活動をされている方を取材し、紹介してまいります。第22回目は、石関 博さんにスポットを当て、お話を伺いました。



最後に一言

私ひとりの力は微力ですが、同じ想いを持った人で力を合わせれば、その力は3倍にも4倍にもなると思っています。桐生市の観光の目玉にするという目標に向かって力を合わせ、県外からもっと多くの方に見に来てもらえるようからくり人形芝居館にしたいと思っています。

好きな言葉

「不言実行」

口にすることは簡単ですが、なかなか行動が伴わないことが多いと感じていますので、私は何も言わずに実行することを心がけています。

